

カナダ留学レポート

湧別高校2年 山崎 遥加

現在のカナダは、10月初旬に雪が少し降ったと思えばここ2,3日で本格的に雪も降り積もり、早くも冬を迎えました。

早いもので、最初は長いのではと考えていた約2か月間の留学も、カナダに来てから1か月半が過ぎようとしています。約1か月半をカナダで過ごしてみて、私は2か月という期間に正直なところ物足りなさを感じています。本場の英語を理解できるようになってきたのは大体1か月を超えたあたりで、ようやくスタート地点に立つことが出来たような気持ちもあるので尚更なのだと思います。まだまだスムーズに言葉が出てこないこともあります。聞くことも話すことも大分板についてきて、人と話すのが楽しく思えるようにもなりました。

学校での生活は概ね良好で、授業ごとの友だちもでき、留学する前に選択した、数ある授業のうちの4科目を毎日勉強しています。1つの科目の授業時間は60分以上と日本よりも若干長いのですが、その分授業が5限までしかないので、下校は大体湧別高校と同じ3時半ごろになります。基本的に部活のようなものはないので、早々に帰宅し、ホストファミリーとの時間を過ごしています。

カナダの学校の様子は、日本のような校則も特になく、髪を染めたり、アクセサリーを着用するのは自由で、授業中に飲み物を飲むことも許可されています。規則規律に縛られず、奔放に活動しているカナダの中高生はとても生き生きとしているように見えます。その個人の自由を尊重する方針からか、はたまた国民性からか、発言の量や自分の考えをしっかりと表現出来たり、人前で何かをするにあたって何一つ臆することなく堂々とやってのける姿は素敵だと私は思います。

私が選択している4つの授業の中で、特に好きな授業は、アートです。湧別高校には美術がないのですが、私自身は絵を描くことが好きなのと、カナダでの美術の取り組みについて個人的に気になったこともあり選択しました。アートは先生に何をするのかを聞くか、自分自身で好きなものを展開していくかは自由で、各々描きたいもののかきたいように描いています。絵といえば、私は線を描くか色を塗るかしか思いつかないのですが、何を使って表現するかも自由で、モールであったり、葉っぱをキャンバスに貼り付けたりと、本当にさまざま、全員が全員ともそのような方法をしているわけではないのですが、それでもユニークな発想が出来るカナダの子たちは非常に独創性が豊かだと思えます。

9月下旬には日帰りのちょっとした旅行に行き、人生で初めてとなる蒸気機関車に乗ってきました。レトロな雰囲気溢れる外見に反して内装は落ち着いており、可愛らしい色合いをした客席や食堂らしきところなど、見るもの全てがとても素敵で車内にあるものすべてに胸をわき躍らせていました。汽車は移動のために乗るのではなく、汽車に乗ることがメインの旅行で、行き帰り合わせて3・4時間ほどの乗車時間の中にもさまざまな演出が用意されており、一切暇することなく終始楽しむことが出来た旅行でした。カウボーイの格好をされたおじさまが居たり、強盗団の一味が汽車をジャックするのも

すべて演出に組み込まれていて、笑いと感動が絶えませんでした。到着した駅にも西部の街並みの一部を模った建造物やお店が小さいながらも立ち並んでいて、そこにあるものを見ているだけで満足感を得ることが出来たのを覚えています。

カナダでの生活は目新しいものばかりで、些細なことでも日本と違うという箇所を見つけるたびに未だに面白いなあと思えます。私はもともと外国の文化に多大な関心を抱いていたのですが、今回の留学でまた一層関心が深まったように感じます。伴って、留学以前から抱いていた、相手の伝えようとしていることに応えたいという気持ちにも拍車がかかったような気がします。

残り1か月と友だちやホストファミリーと過ごせる時間は残り少ないですが、最後まで余すところなくカナダでの生活を楽しまたいと思います。



カナダ留学レポート

湧別高校2年 山崎 遥加

この度、長らく望んでいた2か月半のカナダ留学を終えました。カナダで過ごした2か月半は、私の17年間の生活の中で最も衝撃的だったと言えます。たくさんのカルチャーショックを受け、改めて価値観と文化の違いを認識しました。そして、やはり言語の壁は高く、コミュニケーションを取ったり自分の気持ちを表現するのも苦労することが多々ありましたが、帰国し、ゆっくりとカナダでの生活を考えると、やはり「楽しかった」の一言に尽きます。

特に、湧別町からの短期派遣のみんなや友だちと一緒にいったハロウィーンは想像していたよりも楽しむことが出来ました。当日の夜は生憎の天気、雪が深々と降り積もる中をひたすら歩いて家々を回ったのですが、自分の足でしっかりと歩き回って疲れた分、ハロウィーンの雰囲気や隅々まで味わうことができた気がします。体が凍えるくらい寒かったのですが、カナダでの友だちと短期派遣の子と一緒に素敵な時間を共有しながら、世界にも浸透している行事をすることが出来たのはとても貴重な経験だったと思います。

短期派遣のみんなと合流してからは、日本語が難なく使えるというのももちろんですが、ハロウィーンでもそうだったように、同じ思い出を作ることが出来たのが嬉しかったです。一人で色々なことを体験するのももちろん楽しいのですが、一人よりも二人、二人よりも三人と、楽しいことほど大人数で共有する方がより鮮明に記憶に残りますし、なによりも分かち合えるというのが嬉しかったです。お互いに共感し合えることは大事なのだとも思いました。

私が学校で経験した様々な出来事は、すべて思い出として私の中に深く残っており、思い出の大部分を学校であった出来事が占めているだけあって、学校最後の日の足取りはとても重く、まだこの学校に通ってほしいという気持ちが強くありました。2か月という限られた時間の中、折角友だちになってくれたみんなや、様々な面で良くしてくれたクラスメイトや先生方に会えなくなるのかと思うと、つい感傷に浸ってしまうくらい学校での生活は充実したものになりました。以前広報にも書いたアートの授業もそうですが、「ドラマ」という教科のクラスメイトはやることなすこと全てが奇想天外なことをする方が多く、私はほぼ毎時間彼らに笑わせてもらっていました。留学生で言葉も分からない私を受け入れてくれて、なおかつ留学生だからとっての特別措置もなく、一緒に混ざって授業が出来たこと。それだけでも十分すぎるほどの経験をさせてもらいました。

私はこの度の留学で、人と会話ができることと、相手の伝えたいことを理解できることの重要さを思い知りました。相手が何かを伝えようと努力をしてくれて、それに私が耳を傾けても、当たり前ながら言語を理解していなければ何も分かりません。日本は英語を必修科目としていますが、公用語ではない他の言葉を少しでも知っていること、それは本来ならばとても凄いことだと今回の留学で再実感しました。日常に英語が何気なく溢れているのに、難しいから、苦手だから、とって遠ざけるのは勿体ないと思えるようにもなりました。

日本よりも身近に英語がある環境下の中で、日本語についても考えました。ひらがなに始まり、カタカナ、漢字と当たり前のようにこの3種類を使いこなすことが出来る日本人は素晴らしいと私は思います。ひらがなの中にも、濁音や半音など細かく分類するとひらがなとカタカナだけでも優に100文字を超えます。更にそこから漢字を覚えて、と膨大な数の文字と、多様に変化する文法を軽々と使うことが出来るのに、英語はつい敬遠してしまいがちです。確かに英語は難しいですし、英語圏に留学した私も未だに苦手意識が抜けきっていないのですが、それ以上に日本語は難しいと思います。英語が世界公用語なのは周知の事実ですが、言わば基本的にどこでも通じるということで、英語を学べば例え海を越えても大体の意思の疎通ができてしまうのです。

留学をして、私ひらがなにより悔しかったことは、相手が言っていることを理解することが出来なかったことです。何度も歯がゆい思いをし、その度に申し訳なさでいっぱいになりました。もちろん、伝える手法はひらがなにも言葉だけではなく、ボディランゲージや筆記、絵など様々ありますが、やはり一番真心が伝わるのは目を見て話すことだと思います。今は翻訳機器も発達していて、私も何度も利用し助けられました。打ち込んだり意味を調べたりする分手間取ってしまいます。それでもいいとは思いますが、受け答えをしていく上で一番好ましいのは、やはり自分自身が相手の言葉を理解するというのに尽きると思いました。

苦手と思いながらも、英語に対して柔和な考えを向けられるようになったお蔭で、漠然としか考えることが出来なかった進路についてもなんだか方向性が定まったかのようには思います。これからどう転ぶにせよ、今までのように悩み、思案していくのは変わりないと思うのですが、留学という中々出来そうで出来ない経験を積んで、初めて何を学びたいのかが少し分かった気もするので、これからは真剣に自分の将来と向き合っていきたいです。

カナダで様々なことを経験しても、何を経験して何を感じたのかというのを誰かに伝えなければ、湧別町の助けを借りながら留学をした意味がないと思います。出来はそれほど良くはないのですが、このレポートで一人でも多くの方が海を越えた国に目を向け、たくさん興味を持ってほしいと思います。

そして私を家族として受け入れて下さったホストファミリーと、カナダに行く後押しをしてくれた家族、お世話になったみなさまと湧別町に最大の感謝を贈ります。